

北見志保子 志保子 歌人、小説家。明治十八年二月九日高知縣生れ、昭和二十年五月四日没（八五—九五）。舊姓川島、橋田、本名濱朝野、通稱ゆき子。筆名あけみ、山川朱實、橋田ゆき子、橋田ゆみえ等。中國派遣教員養成所卒。大正二年歌人橋田東聲と結婚し、ゆき離婚して濱田次郎と再婚。歌誌『覇土樹』、『青垣』同人を経て、水町京子等と『草の實』を、昭和十一年川上小夜子等と『月光』を、二十一年後井島一等と『定規律』を創刊。二十四年女人短歌會を興して『女人短歌』を編輯、二十七年『花宴』創刊。徳田秋聲の師等として小説執筆も、ゆき短歌の専心。

著書、歌集『月光』（昭和二年一月十日文房社「草の實叢書」）、『朱實作品集』（山川朱實名、昭和九年四月五日大進社）、『生活文化の方向』（合著・古谷彌武編、昭和十五年九月十七日名取書店）、『現代女流新銳集・第一輯』（川上小夜子合著、昭和十六年一月十日日本選歌集新銳集・第一輯）（高橋英子合著、昭和十六年一月十日日本短歌社出版部「日本短歌叢書」）、『國境まぐ』（山川朱實名、昭和十六年九月五日大同印書館）、『月光選集』（内題「月光」二百五十六人集）編、昭和二十年二月、千五百月光社）、『名歌鑑賞』二十人集』（合著・婦人畫報編集局編、昭和二十一年十一月二十五日東京社）、歌集『花のゆび』（昭和二十五年九月十日女人短歌會「女人短歌叢書」）、同『珊瑚』（昭和二十年二月一日長谷川書房「新選短歌叢書」）等。